

平成21年3月期 決算説明会

(平成21年5月19日)

イー・ギャランティ株式会社

eGuarantee

(ジャスダック市場 証券コード:8771)

本資料には、今後の計画や業績の見通し等が含まれておりますが、これらは現時点において入手可能な情報に基づいて設定したものであり、今後の事業を取り巻く環境の変化により、変動することが予想されます。

従いまして、実際の業績等は、これらの見通しとは異なる可能性がございますのでご了承ください。

※当社は、平成21年3月期より連結財務諸表を作成しておりますので、本資料中の、前期と比較した増減額、比率は参考として記載しております。

1. 平成21年3月期 期末業績概要
2. 平成22年3月期の取り組み
3. 参考資料

1. 平成21年3月期 期末業績概要

2. 平成22年3月期の取り組み

3. 参考資料

eGuarantee 平成21年3月期 連結業績サマリー (前期比)

(単位:百万円)

	H20年3月期 (単体)	構成比 (%)	H21年3月期 (連結)	構成比 (%)	前期比 (%)	増減額
売上高	1,930	100.0	2,703	100.0	140.1	773
売上総利益	1,030	53.4	1,389	51.4	134.9	359
営業利益	320	16.6	470	17.4	146.9	150
経常利益	331	17.2	482	17.8	145.6	151
当期純利益	185	9.6	272	10.1	147.0	87

- ・当社サービスに対するニーズの高まり、大企業からの問合せ及び契約増、また、メガバンクと連携した保証契約も売上高の増加に寄与いたしました。
- ・固定費をはじめ販売管理費の売上高対比が総じて低下したことにより、営業利益率が改善いたしました。

eGuarantee 平成21年3月期 連結業績サマリー（期初予想比）

（単位：百万円）

	H21年3月期 （期初予想）	H21年3月期 （実績）	構成比 （%）	期初予想比 （%）	増減額
売上高	2,600	2,703	100.0	104.0	103
営業利益	430	470	17.4	109.3	40
経常利益	440	482	17.8	109.5	42
当期純利益	240	272	10.1	113.3	32

- ・経済環境の悪化から、当社サービスへのニーズが高まり、売上高が期初予想を上回りました。また、販売管理費は期初予想通りに推移いたしました。
- ・以上の結果、期初予想比は、売上高104.0%、経常利益109.5%、当期純利益113.3%となりました。

eGuarantee 平成21年3月期 連結貸借対照表の概要

(単位:百万円)

資産の部	H20/3 (単体)	構成比 (%)	H21/3 (連結)	構成比 (%)
流動資産	2,987	96.4	3,728	85.8
現預金	2,616	84.4	3,314	76.2
前払費用	242	7.8	274	6.3
未収入金	100	3.3	83	1.9
その他	28	0.9	57	1.3
固定資産	111	3.6	619	14.2
資産合計	3,098	100.0	4,348	100.0

負債の部	H20/3 (単体)	構成比 (%)	H21/3 (連結)	構成比 (%)
流動負債	1,442	46.5	2,046	47.1
買掛金	56	1.8	76	1.8
未払法人税等	119	3.9	184	4.2
前受金	1,209	39.0	1,650	38.0
その他	56	1.8	136	3.1
固定負債	62	2.0	40	0.9
負債合計	1,505	48.6	2,087	48.0

純資産の部

株主資本	1,587	51.3	1,859	42.8
資本金	1,048	33.8	1,048	24.1
資本剰余金	458	14.8	458	10.5
利益剰余金	80	2.6	352	8.1
新株予約権	5	0.2	18	0.4
少数株主持分	—	—	382	8.8
純資産合計	1,593	51.4	2,261	52.0
負債純資産合計	3,098	100.0	4,348	100.0

- ・順調な契約数の増加により、前受金が増加しました。
- ・現預金は、前受金の増加および利益剰余金の積増しにより、増加した一方で、投資有価証券の取得により減少し、3,314百万円となりました。
- ・投資有価証券(国債)の取得により固定資産が増加しました。
- ・少数株主持分の増加及び利益剰余金の積増しにより、純資産合計が増加しました。

平成21年3月期 連結キャッシュ・フローの概要

eGuarantee

	H20年3月期 (単体)	H21年3月期 (連結)	(単位 : 百万円) 増減額
営業活動によるC/F	634	829	195
投資活動によるC/F	815	△1,069	△1,884
財務活動によるC/F	—	388	388
現金等の増減額	1,450	148	△1,302
現金等の期首残高	615	2,066	1,451
現金等の期末残高	2,066	2,214	148

営業CF

増加要因: 税金等調整前当期純利益の増加479百万円、前受金の増加441百万円 等

減少要因: 法人税等の支払額176百万円、前払費用の増加額32百万円 等

投資CF

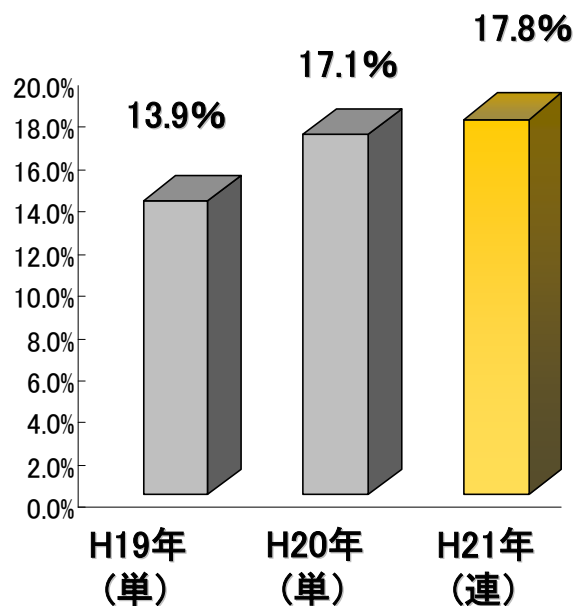
減少要因: 定期預金の増加額550百万円、投資有価証券の取得による支出491百万円 等

財務CF

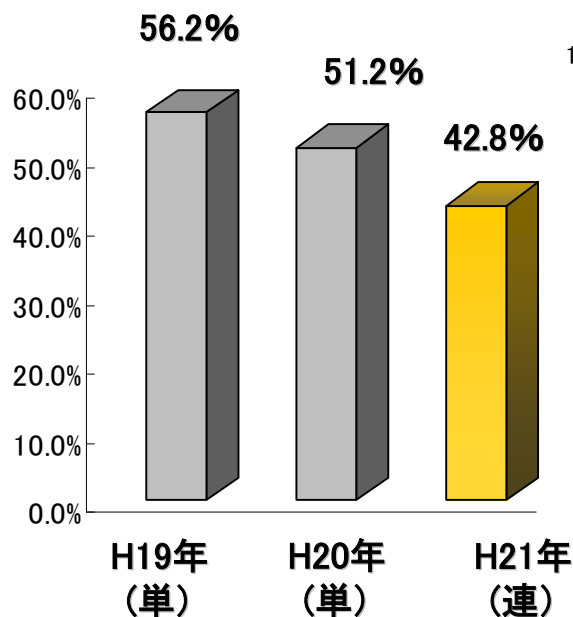
増加要因: 少数株主からの出資受入による収入389百万円

主な経営指標

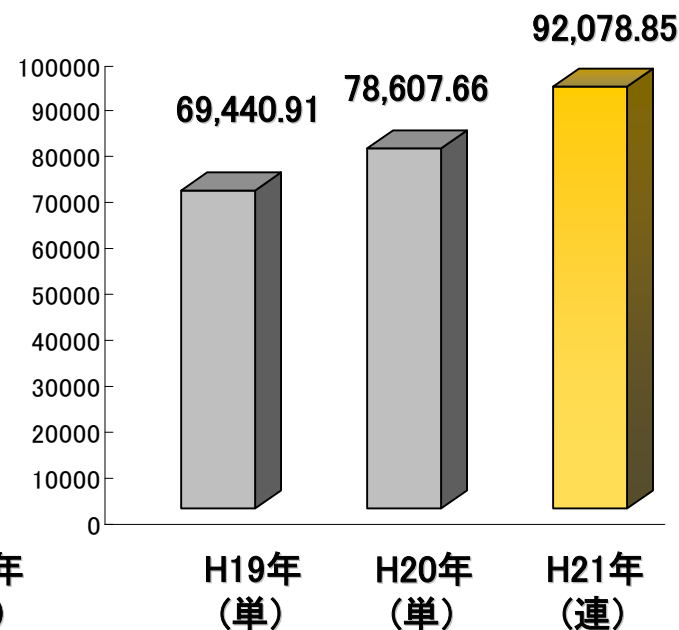
①売上高経常利益率



②自己資本比率

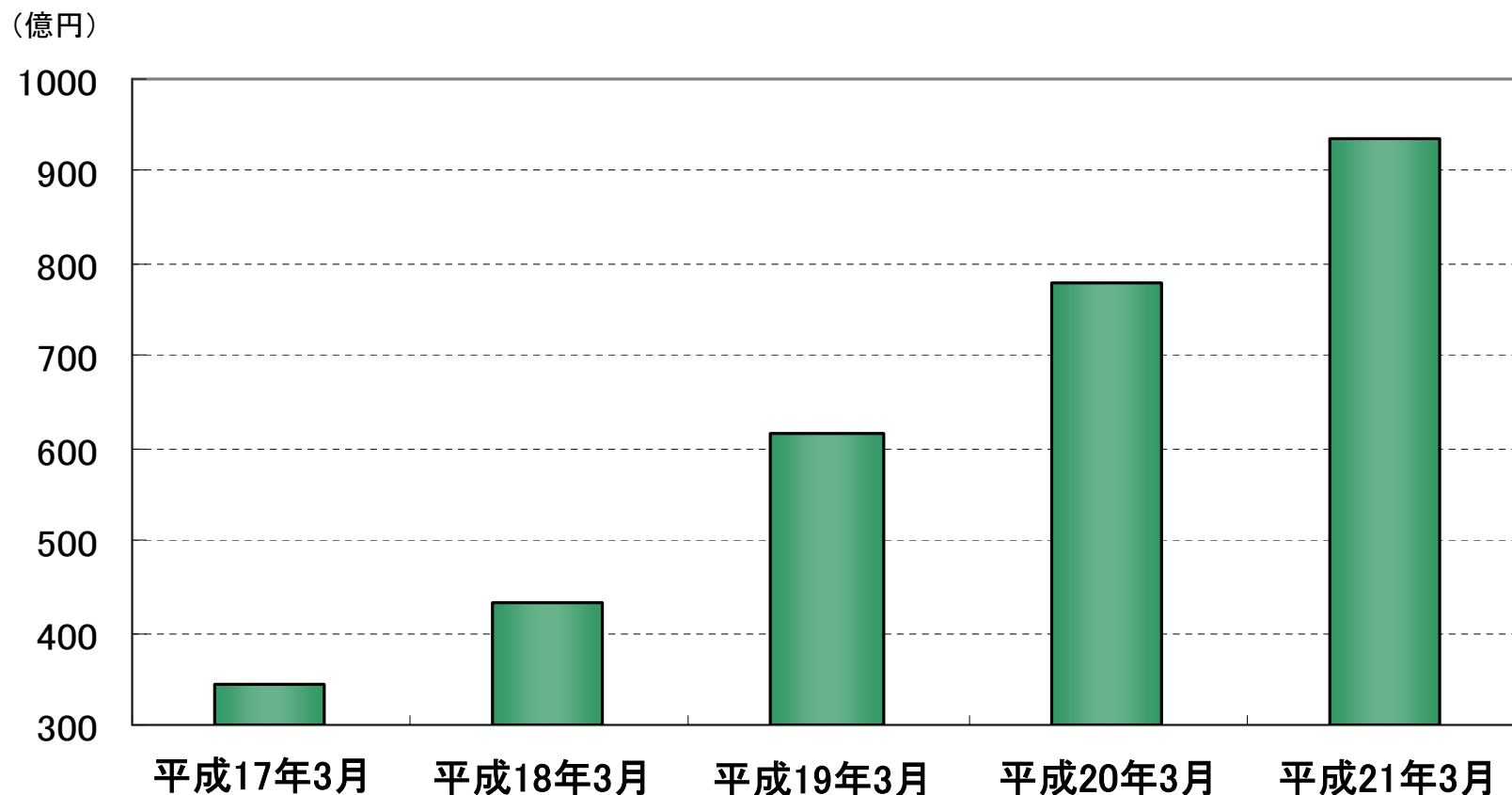


③一株当たり純資産



- ①販管費の売上高対比が低下したことにより、売上高経常利益率は上昇いたしました。
- ②契約数の増加に伴う前受金の増加および、当社子会社への匿名組合出資により、少数株主持分が増加し、自己資本比率は低下いたしました。
- ③利益剰余金の積増しにより、一株当たり純資産は増加いたしました。

保証残高の推移



	平成17年3月	平成18年3月	平成19年3月	平成20年3月	平成21年3月
保証残高金額	343億円	431億円	617億円	778億円	937億円
前期からの増減額	112億円	88億円	186億円	161億円	159億円

平成22年3月期連結業績見通し

(単位：百万円)

	H21年3月期 (実績)	H22年3月期 (予想)	前期比 (%)	増減額
売上高	2,703	3,560	131.7	857
営業利益	470	600	127.4	130
経常利益	482	610	126.3	128
当期純利益	272	330	121.3	58
1株当たり当期純利益 (円)	13,471.2	16,336.6	121.3	2,865.4

次期につきましても安定的な成長を維持し、売上高3,560百万円、経常利益610百万円、当期純利益330百万円を目指してまいります。

1. 平成21年3月期 期末業績概要

2. 平成22年3月期の取り組み

3. 参考資料

1 審査手法の高度化による審査力の強化

リスクに見合った価格設定とリスク資産の入替え
大企業向けのサービス展開の強化

2 販売チャネルの拡大

新たに地方銀行5行との業務提携(平成21年3月末32行)
大手都市銀行、信託銀行、証券会社との業務提携

3 新たな流動化手法の確立

従来の金融機関等に加え、当社が出資するファンドへの
リスク移転を開始

平成22年3月期の取り組み

不況

経済環境の変化に対応

資金調達環境の悪化(一部のノンバンク等の貸し出し姿勢悪化)
企業倒産数の増加と保証ニーズの高まり 等

当社がとるべき戦略

- **不況型販売手法へシフト**
～景気後退時にあったニーズへの対応～
～大企業向けサービス展開の強化～
- **販売チャネルの拡大**
～既存提携先との関係強化～
～新規販売チャネルの拡大～
- **審査の強化**
～情報収集の強化及びデータベースの拡充～
～リスクに応じた価格設定～
～リスク資産(ポートフォリオ)の入替え、優良化～

不況時の顧客ニーズへの対応

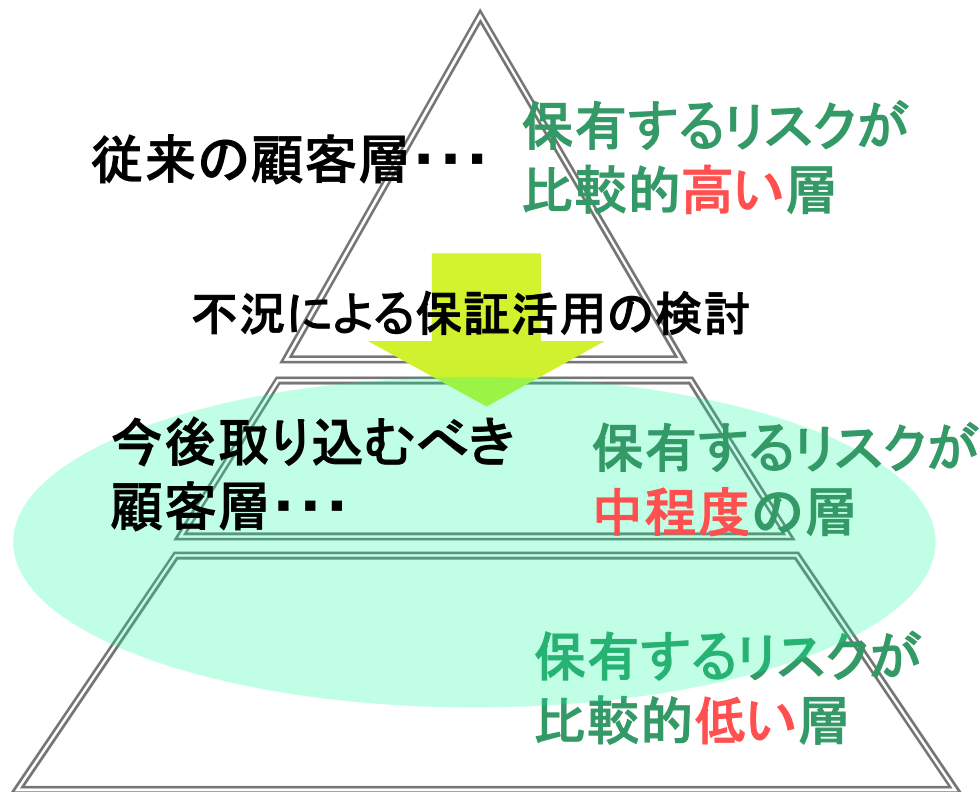


保証によるリスクファイナンスの提供

不況下における企業の資金的なニーズに対応した保証サービスの提案を行います。

- ・主要取引先の倒産による資金繰り難への対応
- ・当社の保証をかけた手形を買取る金融機関との連携 等

大企業向けサービス展開の強化



eGuarantee

<リスク審査力の向上>
 顧客リスクに見合った料率設定
 (低リスク ⇒ 低コスト)

<商品開発力の向上>
 大企業向けサービスメニューの
 拡充

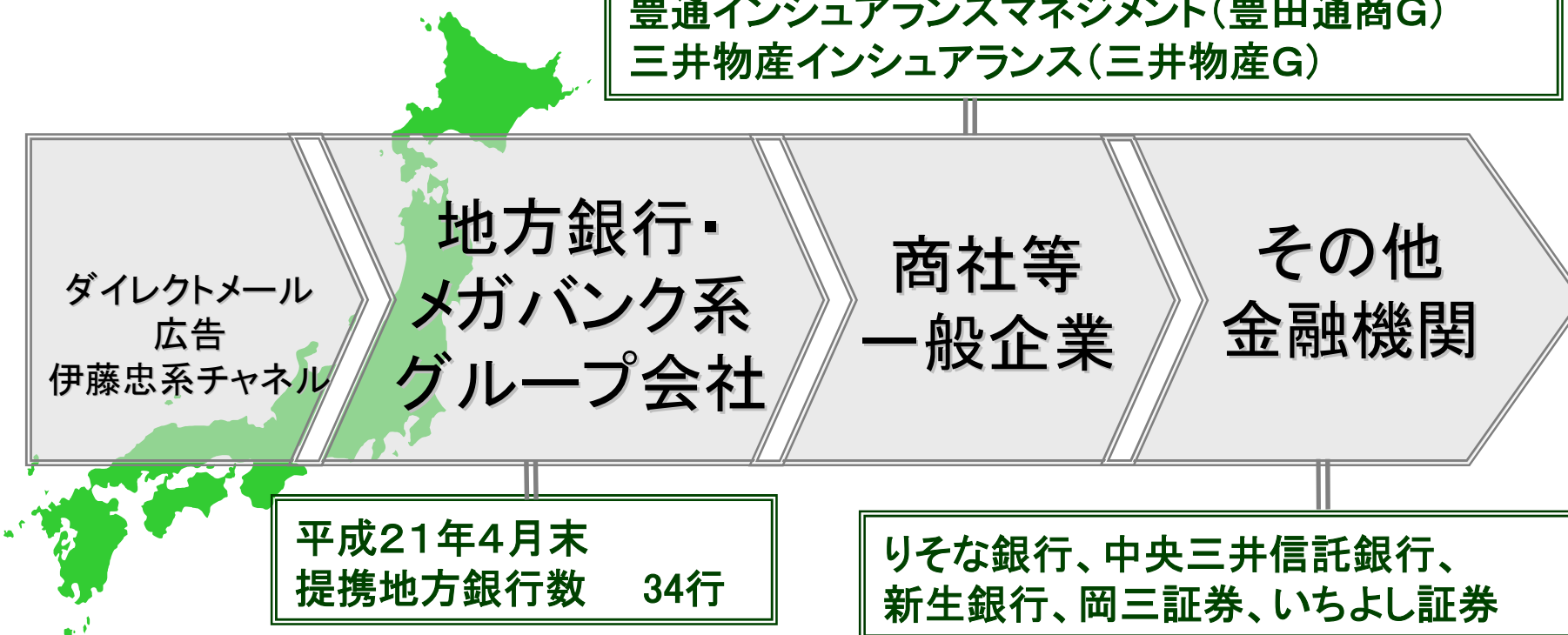
リスクが中程度～比較的低い層
 の取り込み

リスクに見合った料率設定と商品開発の強化により、主に大企業を中心として、従来は保証を活用してこなかったが、不況下で保証ニーズが顕在化している顧客層の取り込みを図ります。

販売チャネルの拡大

【平成21年4月末の提携先】

丸紅セーフネット(丸紅G)
阪和アルファビジネス(阪和興業G)
豊通インシュアランスマネジメント(豊田通商G)
三井物産インシュアランス(三井物産G)



・地方銀行以外の新たな金融機関として、りそな銀行、中央三井信託銀行、岡三証券、いちよし証券との業務提携を開始し、今後も新規取引先の拡大を図ります。
また、販売チャネルとの関係強化により、一提携先当たりの紹介数の増加を図ります。

審査力の強化（１）

問合せ数の増加・顧客数の増加

当社独自の情報

既存顧客からの情報

- ・支払遅延情報
- ・支払条件変更
（支払期日変更）
- ・追加保証依頼 等

新規契約先からの情報

- ・保証依頼集中
- ・支払遅延情報 等

リスク移転先からの情報

- ・金融機関等からの
間接情報

新たな情報
分析手法の開発

審査情報
データベースの拡充

審査力の向上

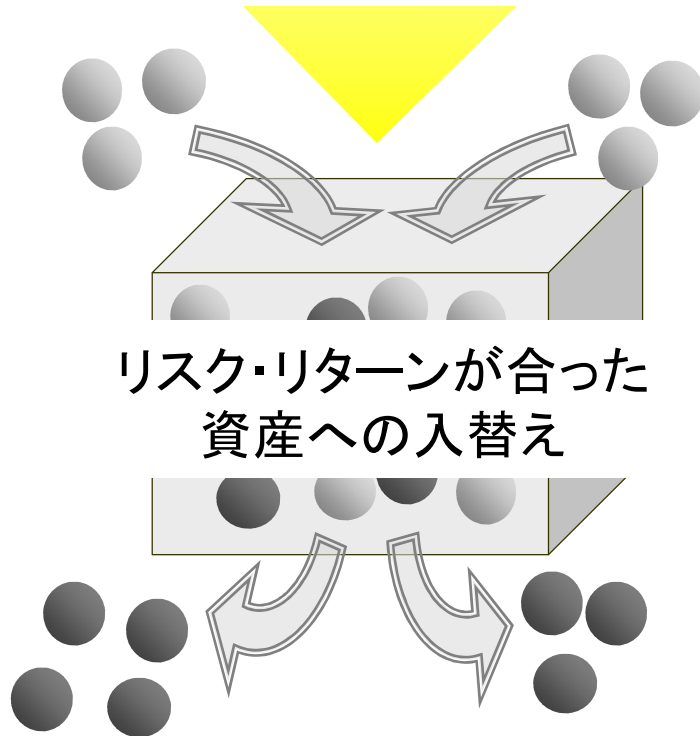
問合せ数、顧客数の増加を図ることで、当社独自の情報の収集に努めます。そして、独自の情報に基づいたデータベースの拡充と情報分析の高度化により、更なる審査力の向上を図ります。

審査力の強化（2）

eGuarantee

審査力の強化

リスクに応じた価格設定



リスク・リターンが合った
資産への入替え

投資しやすいリスクを提供
リスク移転先にとって

リスク移転手法の多様化

従来のリスク移転先

金融機関、
ファクタリング会社等

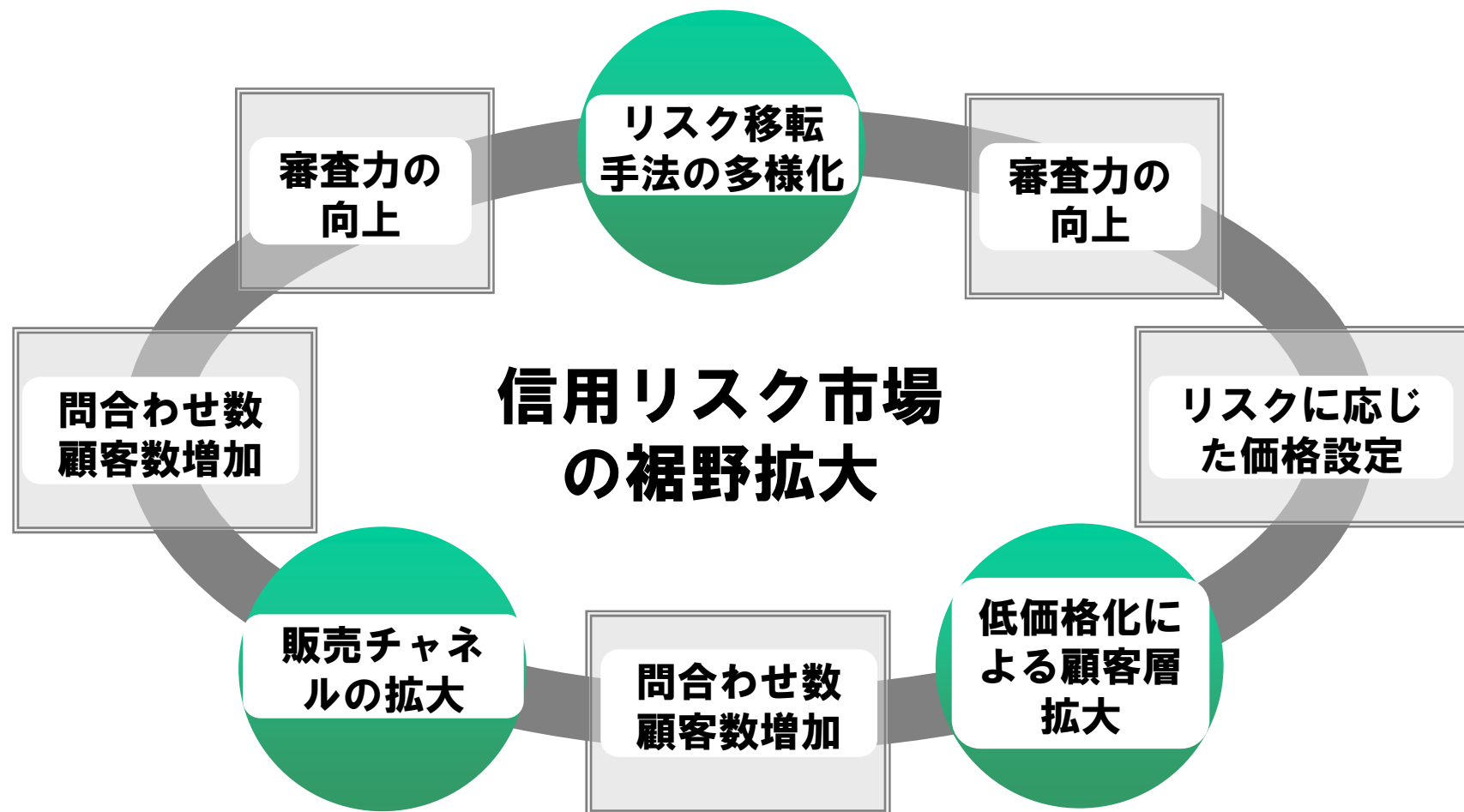
新たな金融機関

ファンド等

リスクの自己保有も含めた
リスク移転先の確保

審査力を強化し、リスクに見合った価格設定を行うことでリスク資産を入れ替え、ポートフォリオの優良化を行い、リスク移転手法の多様化に努めます。

中長期的な方向性



関連する一連の取り組みを通じた保証規模の拡大と、保証規模拡大による各取り組みの更なる強化を目指します。

1. 平成21年3月期 期末業績概要
2. 平成22年3月期の取り組み
- 3. 参考資料**

会社概要

eGuarantee

-
- 社 名 : イー・ギャランティ株式会社
(eGuarantee,Inc.)

 - 本 社 : 東京都渋谷区恵比寿4-20-3

 - 設 立 : 平成12年9月

 - 資 本 金 : 1,048百万円 (発行済株式数:20,200株)

 - 事 業 内 容 : 信用リスク受託・流動化事業

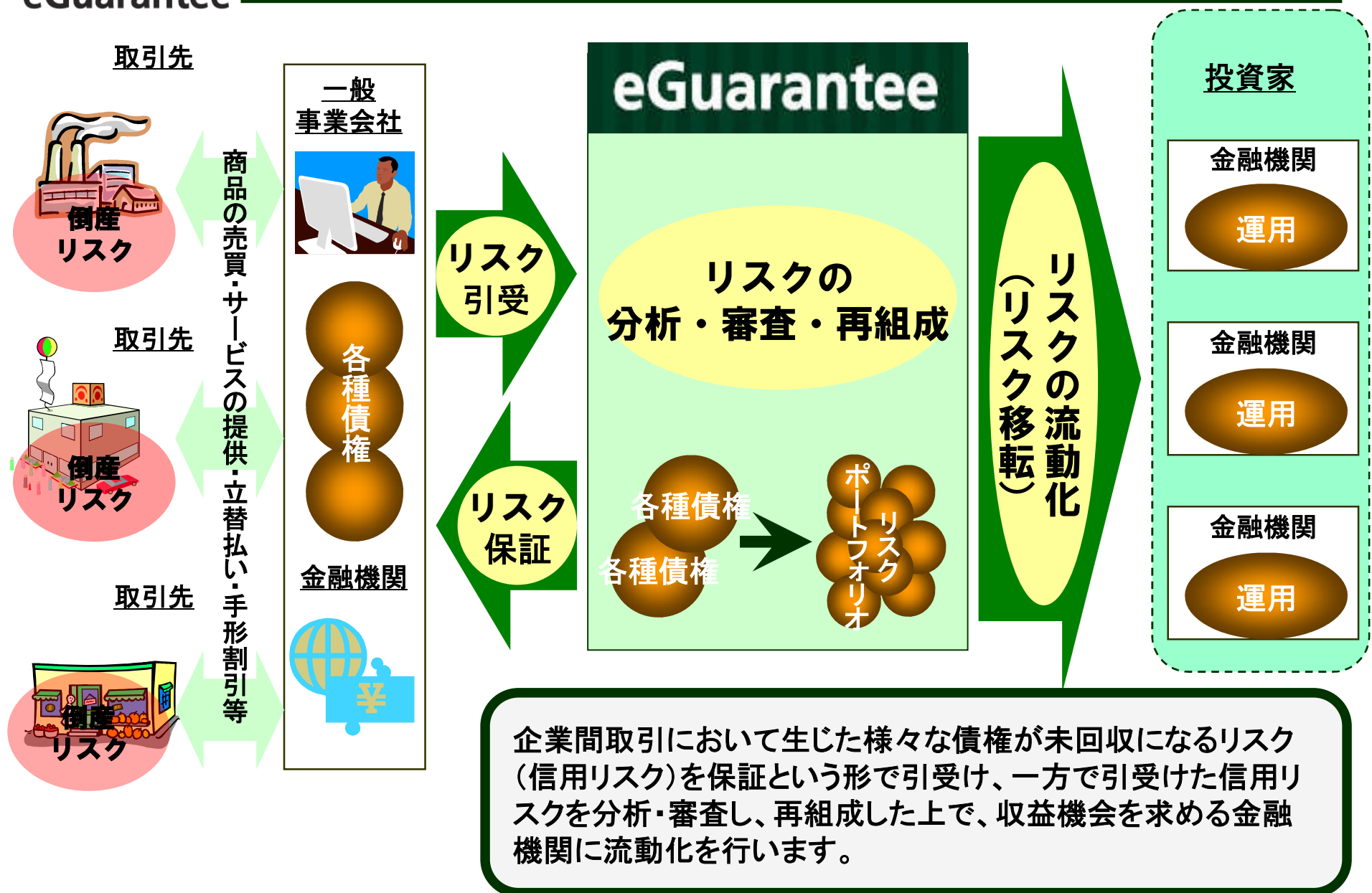
 - 代 表 者 : 代表取締役社長 江藤 公則

 - 主 要 株 主 : 伊藤忠商事(株)、(株)帝国データバンク、(株)NTTデータ、
(株)ジェーシービー、あいおい損害保険(株)、(株)損害保険
ジャパン、日本興亜損害保険(株)、三井住友海上火災保
険(株)、(株)みずほコーポレート銀行

 - 従 業 員 : 80 名(平成21年3月末現在)
-

ビジネスモデル

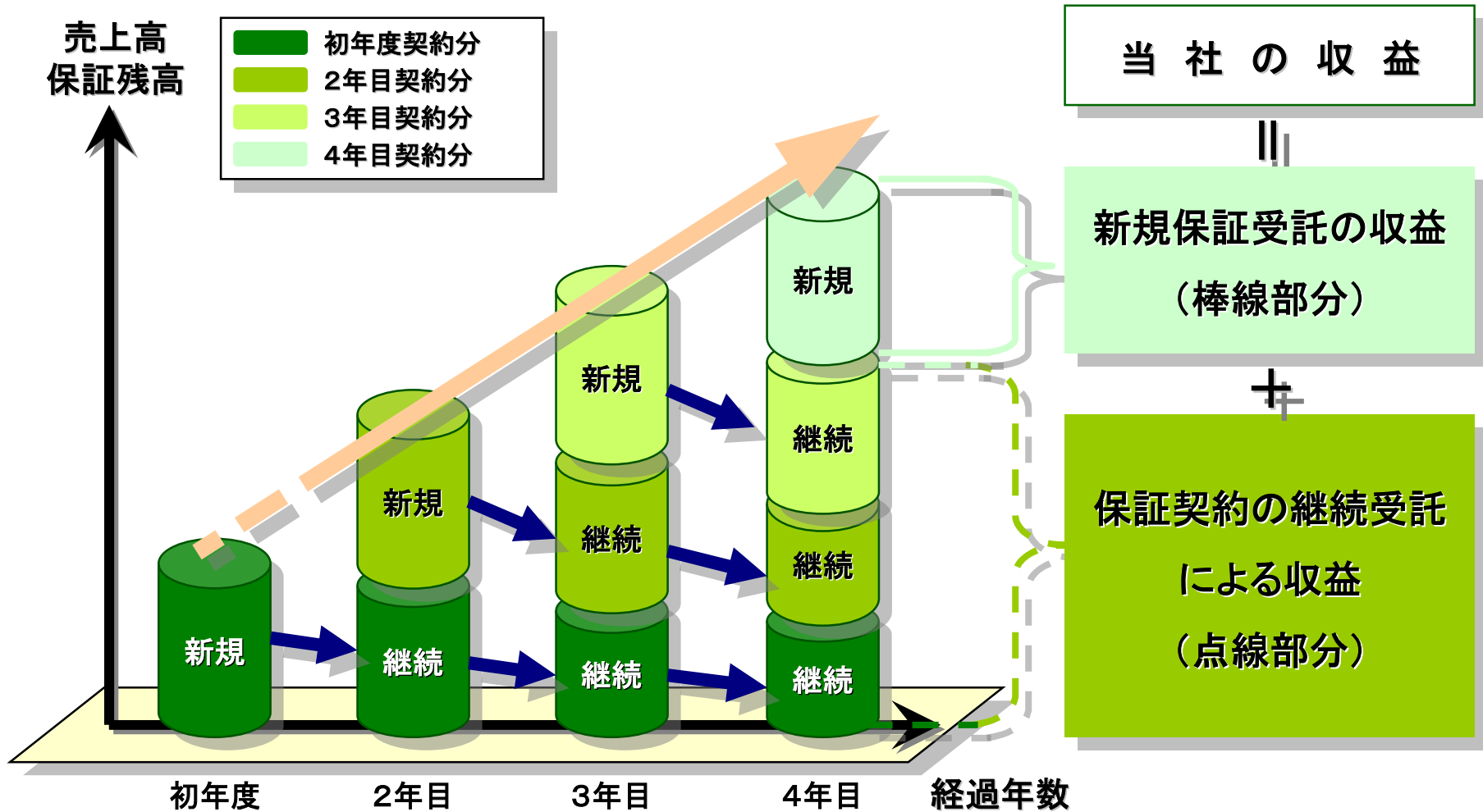
eGuarantee



当社の収益構造

eGuarantee

当社の収益構造は、毎年の保証受託契約の更改率(継続率)が高く、
下方硬直性が高いストック型ビジネスモデル



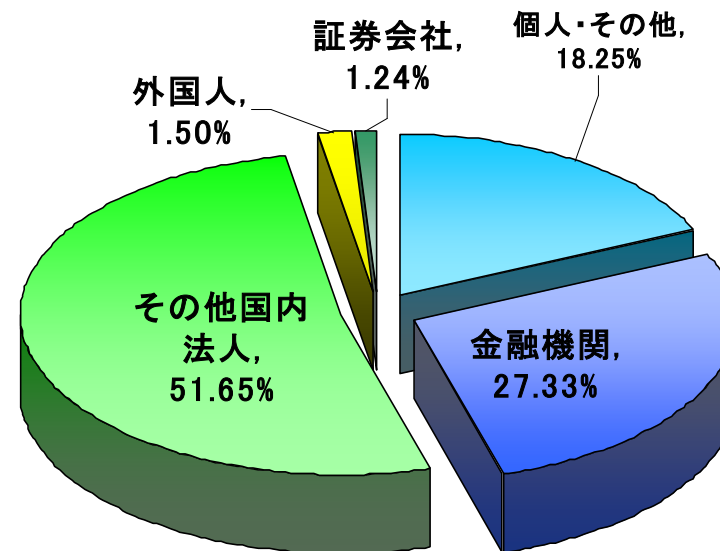
株主状況

eGuarantee

＜上位10位の株主状況＞

	氏名又は名称	持株数	持株比率
1	伊藤忠商事	6,398	31.67%
2	帝国データバンク	1,794	8.88%
3	日本マスタートラスト信託銀行(信託口)	1,629	8.06%
4	エヌ・ティ・ティデータ	1,200	5.94%
5	ジェーシービー	1,000	4.95%
6	あいおい損害保険	800	3.96%
7	損害保険ジャパン	784	3.88%
8	日本興亜損害保険	670	3.31%
9	三井住友海上火災保険	540	2.47%
10	みずほコーポレート銀行	500	2.12%

＜株主の分布状況＞



IRに関するお問合せ

イー・ギャランティ株式会社 経営企画室

住 所

東京都渋谷区恵比寿4-20-3

電 話

03-5447-3572

F A X

03-5447-3580

E - m a i l

ir@eguarantee.co.jp